

令和4年10月21日

南の風 456

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

前号に続いて鈴木氏の著書から参考にしたい、指導者としての能力を抜粋します。

指導者が磨くべき能力が5つあると言われています。「5者」と言われるもので、それぞれに指導者が果たすべき役割の側面が表現されています。

①学者

その分野に精通していて、博識でなければなりません。「教える」という立場にある人間なのですから当然のことです。

②医者

バスケットボール選手にはケガが付き物です。ケガはしないに越したことはありませんから、予防できるのがベストですが、もしものための応急処置など最低限の医学的な知識は持っていたいものです。育成年代なら成長期についての知識も必要です。

またチームスポーツですから組織の問題点を見つけて、治療するという意味でも医者と言えます。

③易者

選手の将来を見通せなければ適切な指導はできません。チームの未来を見通せなければ継続性を保てません。また試合までのスケジュールを管理しなければなりませんし、いざ試合になれば展開を読んで、選手起用や戦術を考えます。

④芸者

自分の言葉をどうやって相手に伝えるか。どうすれば伝わりやすいか。これを表現するのは一種の芸能です。またバスケットボールの試合を観客にどう見せるのかという意味でも、エンターテイナーとしての能力が必要になるでしょう。

⑤役者

選手が浮かれているときに厳しい顔をし、苦しいときに前向きな言葉をかける。怒りながら手ごたえを感じて心の中で笑う。コーチという役を演じるという意味で役者でなければなりません。

指導者にはさまざまな能力が求められるということです。チームという有機体を成果に向けて導かなければならぬわけですから、多くの側面が求められて然るべきです。指導者という役割は、一生かけて探求し続ける価値ある役割だと思うのです。

以上、鈴木 良和氏の著書からの抜粋です。

バスケットボールの指導法や理論は日々進化しています。私は、コーチは最先端の理論や技術を学ぼうとする姿勢は持ち続けなければならないと思っています。コーチの知識が増えれば、選手に対する指導の幅もぐっと広がるからです。常に学び続けることは指導者の責任と言えます。

但し気を付けなければならないのは、学んだ知識や技術をすぐに自チームに取り入れようとしてしまわないようにすることです。特に育成年代の指導者は、選手が置かれている状況や環境、実態を把握して優先順位を考えて指導にあたることが重要です。